

2024年度

国際日本学部演習案内

School of Global Japanese Studies

Seminar Syllabus

明治大学

Meiji University

目 次 /Contents

1. ゼミナール（演習）とは何か / What is zemi?	2
2. 演習入室試験について（日本語版）	
演習入室試験日程	4
演習入室試験受験上の注意	6
演習入室試験申込手続	7
3. Screening Information (in English)	
Screening Schedule	10
Important Notes	12
Application procedure for the Screening	13
4. 2024 年度国際日本学部演習担当教員一覧/List of Seminar lecturer in AY2024	15
5. 演習概要（教員別） / Seminar syllabus	
01 ヴァシリョウク, スヴェトラナ/VASSILIOUK, Svetlana	16
02 鵜 戸 聡 /UDO, Satoshi	18
03 呉 在 烜 /OH, Jewheon	20
04 大須賀 直子 /NAOKO, Osuka	21
05 大 矢 政 徳 / OYA, Masanori	22
06 小笠原 泰 /OGASAWARA, Yasushi	23
07 小 野 雅 琴 /ONO, Makoto	26
08 岸 磨貴子 /KISHI, Makiko	27
09 クェク, マーリ J. N. H. /QUEK, Mary	28
10 小 谷 瑛 輔 /KOTANI, Eisuke	29
11 小 森 和 子 /KOMORI, Kazuko	30
12 佐 藤 郁 /SATO, Iku	31
13 鈴 木 賢 志 /SUZUKI, Kenji	32
14 瀬 川 裕 司 /SEGAWA, Yuji	33
15 田 中 牧 郎 /TANAKA, Makiro	34
16 旦 敬 介 /DAN, Keisuke	35
17 戸 田 裕美子 /TODA, Yumiko	36
18 長 尾 進 /NAGAO, Susumu	37
19 萩 原 健 /HAGIWARA, Ken	38
20 廣 森 友 人 /HIROMORI, Tomohito	39
21 藤 本 由香里 /FUJIMOTO, Yukari	40
22 眞 嶋 亜 有 /MAJIMA, Ayu	41
23 溝 辺 泰 雄 /MIZOBE, Yasuo	43
24 美濃部 仁 /MINOBE, Hitoshi	45
25 宮 本 大 人 /MIYAMOTO, Hirohito	46
26 森 川 嘉一郎 /MORIKAWA, Kaichiro	47
27 山 脇 啓 造 /YAMAWAKI, Keizo	49
28 ワルド, ライアン /MINOBE, Hitoshi	50

ゼミナール（演習）とは何か

国際日本学部長
鈴木 賢志

ゼミとは何でしょう。正直なところ、この学部で教え始めたばかりのころ、私はよく分かっていませんでした。実は、私は自分の学生時代にゼミという形式の授業を半年しか受けたことがありません。その時は先生の著書を分担して読み、それに関連してそれぞれ調べたことを発表するというものでした。その後、私は長らく海外の大学で過ごしましたが、学生としても教員としても、ゼミという形式の授業を経験することはありませんでした。ゼミというスタイルは、国際的にはかなり特殊な学びの形なのです。帰国して明治大学国際日本学部で教えるようになり、初めてゼミの学生の募集案内を書いた時には、ずいぶん悩みました。日本での教育経験が長い何人かの先生に「ゼミって、何をすれば良いのでしょうか」と聞いてみると、「君のやりたいようにやればいいんだよ」と、何とも答えになっていないような答えが返ってきて、途方に暮れてしまったことをよく覚えています。

それから長い月日が経ち、今年はどうとう15回目の募集となりました。これまでの試行錯誤と経験によって分かったのは、やはり結局は「やりたいようにやればいい」なのだ、ということでした。すなわち、一人一人の教員が、それぞれの専門的な見地から自分が最も有益であると信ずる教育を行うことが、学生のみなさんが充実した学びを得るための最善の方法だということなのです。

ただし、いくら教員が手をつくしても、みなさんが待ちの姿勢で「学ばせてもらう」のを待っているのでは、何も得られません。ゼミが少人数であることの利点は、きめ細かく教えてもらえることだけではありません。あなたがどのような興味関心を持って、その教員から何を教わりたいのかを、しっかりと伝える機会を得られるということなのです。そして、それはあなた自身がしっかり考えなくてはならないことです。

なお、ゼミは個人ではなくグループで活動することも忘れてはなりません。そのことは、時としてあなたの行動を制約することになるかもしれません。けれども互いに協力し、切磋琢磨し合うことで得られるものは非常に大きいのです。さらにゼミを通じて得られるつながりは、将来にわたって続く、かけがえのない財産となります。

本学部の多くの皆さんが、ゼミを通じて新しい学びを体得し、また新しい出会いを育むことができるよう、心から願っています。

What is zemi?

Kenji Suzuki

Dean, School of Global Japanese Studies

What is zemi? To be honest, I did not have the answer when I started to teach at this School. In fact, I took a zemi class for only one semester when I was a student myself. At that time, we merely read a book of the teacher and presented a research only in brief. I was at non-Japanese universities thereafter, and I had no zemi either as a student or as a teacher. After all, zemi is very unique of Japan. When I came back to Japan to teach at this School, I had no experience of zemi. Hence it was very difficult for me to write a syllabus of zemi. I remember that I asked my older colleague what I should do for zemi, and that the answer was “You can do whatever you like” - I was at a loss in the end.

Long time has passed since then, and this is the 15th time of our zemi guidance. After many trials and errors and various experiences, I have now concluded that it is best to do whatever I like. I now believe that it is best for our teachers, as highly qualified experts of their own fields, to do whatever they like, so that they can provide the best education for the students.

However, you cannot get anything if you just wait “to be learned”. Zemi is composed of a small number of students, and that is beneficial to you not only because you are cared more in class, but also because you have more chances to express what you are interested and what you expect to learn. Of course, you have to prepare yourself for that.

Having said that, you have to remember that zemi acts as a group, and that is not an individual lesson. That might be a restrict at times, but you may well gain valuable experiences from cooperation and mutual development by various group-based activities.

I sincerely hope that many of you at this School will learn new things and meet many new people with zemi, which help you develop even further.

2. 演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験日程

1 全体向け演習入室選考試験ガイダンス動画/演習紹介動画 配信

日程：11月8日（水）10：00～

方法：[WEB配信](#)

2 入室選考試験

① 一次入室試験

11月20日（月）～22日（水） * 日時及び詳細は後日案内 * オンラインまたは対面で実施	演習個別ガイダンス *希望する演習のガイダンスに参加すること。
11月20日（月）12時00分～ 11月22日（水）23時59分	一次入室試験申込み * Oh-o! Meiji で申し込み
12月2日（土）10時00分～	一次入室試験
12月5日（火）まで	一次入室試験合格発表

② 二次入室試験（一次入室試験不合格者・未申請者対象）

12月12日（火）～12月14日（木）	演習個別ガイダンス *二次募集を行う演習は一次演習試験結果発表の際に案内予定
12月12日（火）12時00分～ 12月14日（木）23時59分	二次入室試験申込み * Oh-o! Meiji で申し込み
2024年1月20日（土）10時00分～	二次入室試験
1月23日（火）まで	二次入室試験合格発表

③ 三次入室試験（二次入室試験不合格者・未申請者対象）

2024年4月上旬～中旬	三次入室試験 * 詳細は2024年度4月に案内
--------------	----------------------------

※ 三次入室試験以降の募集は行わない。

3 留学をしている学生について

2年次秋学期/3年次春学期に留学している場合でも、留学しない他の学生と同じ日程および方法で手続きを行う必要がありますので注意してください。また、試験や申込受付等の時間はすべて「日本時間」を基準に行われます。十分に注意してください。

入室試験は各演習担当教員が個別に実施します。なお、試験については留学しない学生と同じ日程で実施する予定ですが、時差等による配慮を希望する場合は、E-mail等で演習担当教員へ各自、依頼をしてください。

2. 演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験受験上の注意

受験にあたっての注意事項は以下のとおりです。

- 1 各演習の募集人員は、10～21名です。
- 2 入室試験の申し込みは、Oh-o!Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して、各期限内に手続きをしてください。
締切厳守。期限を過ぎた場合、申し込みをすることはできません。
- 3 締切後に Oh-o!Meiji のグループを作成します。アンケートに回答した演習のグループに入っているか確認をしてください。
- 4 演習入室試験日程等演習に関係する重要なお知らせはすべて Oh-o!Meiji で配信します。演習入室試験実施期間中は、随時確認するようにしてください。
- 5 同一募集期間内に複数の演習を受験した者は、すべて無効（不合格）となります。
- 6 合格が決定した者は、それ以降の受験資格を失います。ただし、4月に募集する演習への入室試験に限り、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得たうえで、受験することが認められます。
- 7 4月に募集する演習に入室を希望する場合も今回の演習入室試験を受験することは原則可能です。ただし、もし今回の演習入室試験に合格した上で4月に募集する演習を受験するためには、既に合格が決定した演習の担当教員の了承を得なければなりません。
4月に募集する新任教員等の演習入室試験の受験を希望している場合は、今回受験する予定の教員に、個別ガイダンス等を利用して、事前にその受験の可否について必ず確認して下さい。
- 8 担当者の都合により、演習が3年次のみの開講となる場合があります。対象となる演習はガイダンスでお知らせします。

2. 演習入室試験について（日本語版）

演習入室試験申込手続

入室試験（一次・二次）の申し込みは、Oh-o! Meiji ポータルページに配信されるアンケートを利用して行います。申込手続き方法は以下のとおりです。

- 1 「Oh-o! Meiji システム」(https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index) のポータルページへログインしてください。Oh-o! Meiji システムのポータルページへのログインには、共通認証パスワードが必要になります。忘れてしまった場合は速やかに事務室窓口にて再発行の手続きをしてください。電話による再発行の問い合わせは受けません。
- 2 自身のポータルページが表示されます。受付期間になったら、アンケート「2023 年度演習入室試験一次申込手続き」を選択してください。

The screenshot shows the Oh-o! Meiji portal homepage. The navigation bar includes HOME, クラスウェブ, 授業検索, グループ, and ポートフォリオ. The main content area is divided into several sections: a calendar for June 2017, a '個人宛・所属事務室からのお知らせ' (Notice from individual/department) section with a notice about a scholarship, a '授業に関するお知らせ' (Notice about classes) section, and a 'その他大学からのお知らせ' (Notice from other universities) section. On the right, there are links for Meiji Mail and an RSS reader. The 'アンケート' (Survey) section is circled in black, displaying a survey titled '2018年度演習入室試験一次申込み手続き' (Application for the 2018 Practice Room Exam First Round) with a 'NEW' tag and a response deadline of 2017/07/21.

3 「2024年度演習入室試験一次申込手続き」の画面が表示されますので、
必要情報を全て入力してください。

ME > アンケート回答 > トップ

年度演習入室試験一次申込手続き(20180620)	
回答期間	
記名・無記名	記名式アンケート
回答の修正	可
氏名	
回答日時	未回答

登録部署: 中野教務事務室

設問1 学年を選択してください。
Please select your year. **[必須]**

▼

4 すべて入力したら、「確認画面に進む」を選択してください。※まだ申込完了ではありません。

設問6 あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？
※ この項目は入室試験には影響されません。

How did you check the seminar introduction?
* This questionnaire is not effect to the screening result. **[必須]**

見ていない / I did not check any introduction.
 個別説明会 (オフライン) / Orientation by instructor (Off-line)
 ホームページ (オンライン) / Homepage (On-line)
 個別説明会・ホームページ両方 / Both

上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次に進んでください。

- 5 入力内容の確認画面が表示されますので、必ず入力内容を再度、確認してください。問題がなければ「回答する」をクリックしてください。入力内容に修正を加える場合は「前に戻る」を選択し、修正してください。

設問6	あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？ ※ この項目は入室試験には影響されません。 How did you check the seminar introduction? * This questionnaire is not effect to the screening result. [必須]
ホームページ (オンライン) / Homepage (On-line)	

← 前に戻る

回答する

Page Top

入力内容確認画面を確認後、「回答する」をクリックすれば、申込完了です。

※申込内容は期間内であれば修正することができます。

※上記は一次申込手続きを例に挙げましたが、二次申込手続きも同様の手続きとなります。

3. Screening

Screening Schedule

- 1 Online videos: Seminar Screening guidance video / Seminar Introduction videos

The videos will be available from **Wednesday, November 8**

Please check the website.

- 2 Seminar Screening

① Screening: Period 1

- November 20 ~ November 22 * Each seminar's schedule will be announced on Oh-o! Meiji.	Seminar introduction for each seminar *Please attend the orientation of the seminar you wish to join.
From 12 pm (noon), November 20 to 11:59 pm (night), November 22	Application for screening: Period 1 *Apply via Oh-o! Meiji
From 10 am, Saturday, December 2	Screening: Period 1 (★)
Tuesday, December 5	Announcement of screening results for Period 1

② Screening: Period 2

(For students who did not pass or did not apply in Period 1)

From Tuesday, December 12 to Thursday, December 14	Seminar introduction by instructors *We will announce the list of seminars that will have a screening in Period 2 when we announce the results for Period 1.
From 12 pm (noon), December 12 to 11:59 pm (night), December 14	Application for screening: Period 2 * Apply via Oh-o! Meiji
From 10 am, Saturday, January 20, 2024	Screening: Period 2 (★)
Tuesday, January 23	Announcement of screening results for Period 2

③ Screening: Period 3

(For students who did not pass or did not apply in Period 1 or 2)

Early-April to mid-April 2024	Screening: Period 3 *Details will be announced on April 2024
-------------------------------	---

3 For students studying abroad

Even if you study abroad in the Fall Semester of your second year or the Spring Semester of your third year, you must also follow the same schedule and procedures as other students. Please note that all dates and times are in Japan Standard Time (JST).

Each instructor will conduct screening individually. We will generally hold the screening with the same schedule as other students. However, please contact each instructor by email if you need consideration for the time difference or other issues.

3. Screening

Notes for application

Please make sure to read before you apply.

- 1 Each seminar will accept up to 10 to 21 students.
- 2 Please apply for Seminar Screening by answering the **Oh-o! Meiji questionnaire during each application period.** You cannot apply after the deadline.
- 3 We will create an Oh-o! Meiji group for each seminar after the deadline, so please check that you are in the seminar group you applied for.
- 4 We will send you all notices with Oh-o! Meiji, so please check your messages regularly.
- 5 You can only apply for one seminar during each period. If you apply for more than one seminar during a single period, all results will be invalid.
- 6 If you pass a screening for a Seminar, you can no longer apply for screening in the next period. However, if there are new seminars available in April, you can apply. If you wish to change your seminar in April, please seek approval from the instructor of the first seminar.
- 7 It is generally possible to apply for screening at this time, even if you intend to join later a seminar that has screening in April. However, if you pass the screening in the Fall Semester, you will need the approval of the first seminar's instructor before you can apply to the new seminar. If you already plan to apply for a new seminar in April, make sure to confirm in advance with the first seminar's instructor, during seminar guidance, etc., whether this will be permitted.
- 8 There may be seminars that will only be held in your third year (two semesters). Details will be announced in the guidance of each seminar.

3. Screening

Application

For Period 1 and Period 2, please apply for the seminar screening from the Oh-o! Meiji questionnaire.

Instructions

- 1 Login to Oh-o! Meiji: <https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index>
- 2 Choose [2024 年度演習入室試験一次申込手続き] (Application for Seminar Screening 2024) and go to the next page.

The screenshot shows the Oh-o! Meiji portal homepage. The navigation bar includes HOME, クラスウェブ, 授業検索, グループ, and ポートフォリオ. The main content area is divided into several sections: a calendar for June 2017, a '個人宛 所属事務室からのお知らせ' (Personal notices from the department office) section with a notice about overseas study support, a '授業に関するお知らせ' (Class-related notices) section, and a 'その他大学からのお知らせ' (Other university notices) section. On the right, there are sections for 'Meiji Mail' and 'RSSリーダー' (RSS reader) with university news. The 'アンケート' (Survey) section at the bottom left is circled in red, highlighting a notification for the 2018 seminar screening application.

- 3 Fill out the required fields marked in red.

ポータルHOME > アンケート回答 > トップ

アンケート

年度演習入室試験一次申込手続き(20180620)

回答期間	
記名・無記名	記名式アンケート
回答の修正	可
氏名	
回答日時	未回答

登録部署: 中野教務事務局

設問1 学年を選択してください。
Please select your year. **[必須]**

4 After you complete all questions, click “[確認画面に進む](Next). You have not finished yet”.

設問6 あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？
※ この項目は入室試験には影響されません。

How did you check the seminar introduction?
* This questionnaire is not effect to the screening result. **[必須]**

見ていない / I did not check any introduction.
 個別説明会（オフライン） / Orientation by instructor (Off-line)
 ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)
 個別説明会・ホームページ両方 / Both

上記内容でよろしければ「確認画面に進む」ボタンをクリックして次に進んでください。

[保存せずに前の画面に戻る](#) [確認画面に進む](#)

5 Make sure to re-check your answers on the screen. If anything is wrong, choose [前に戻る](Back).
If everything is correct, choose [回答する](Submit).

設問6 あなたはどの媒体で演習紹介をご覧になりましたか？
※ この項目は入室試験には影響されません。

How did you check the seminar introduction?
* This questionnaire is not effect to the screening result. **[必須]**

ホームページ（オンライン） / Homepage (On-line)

[← 前に戻る](#)

[回答する](#)

↑ Page Top

※ You can change the information you registered until the deadline.

2024年度 演習一覧
AY2024 List of seminar

担当者氏名 Lecturer	紹介動画 Movie	職名 Title	担当科目 Lecture Course	テーマ Theme	開講言語 Language
ヴァシリューク スヴェトラーナ YASSILIOUK Svetlana	-	教授 Prof.	国際関係論 International Relations	Japan's contemporary foreign relations in the Indo-Pacific Region (the IPR)	英語 English
榎戸 聡 UDO Satoshi	※	准教授 Associate Prof.	フランス文化論 French Culture Studies	環境×文学×食	日本語 Japanese
奥 在恒 OH Jewheon	※	教授 Prof.	日本的ものづくり論 Japanese Manufacturing Management	日本企業の研究	日本語 Japanese
大須賀直子 OSUKA Naoko	-	教授 Prof.	言語と文化 Language and Culture	翻訳を通して考える言語と文化	日本語 Japanese
大矢 政徳 OYA Masanori	※	教授 Prof.	英語学 English Linguistics	言語学入門	日本語 Japanese
小笠原 奏 OGASAWARA Yasushi	※	教授 Prof.	日本のビジネス文化 Business Culture in Contemporary Japan	デジタルテクノロジー革新とグローバル化による世界のGRAND TRANSFORMATIONについて考える	日本語 Japanese
小野 雅琴 ONO Makoto	-	講師 Senior Assistant Prof.	広告とメディア Advertising Practice and Media Studies	広告の理論実証研究	日本語 Japanese
岸 磨貴子 KISHI Makiko	リンク	准教授 Associate Prof.	インターネットと社会 Internet and Society	教育工学/学習環境デザイン	日本語 Japanese
クエク マーリ QUEK Mary	-	特任准教授 Associate Prof.	ホスピタリティ・マネジメント論 Hospitality Management Studies	Project based learning in the hospitality and travel industries	英語 English
小谷 珠輔 KOTANI Eisuke	※	准教授 Associate Prof.	近現代日本文学 Modern Japanese Literature	近現代日本のコンテンツ・メディア・物語	日本語 Japanese
小森 和子 KOMORI Kazuko	※	教授 Prof.	日本語教育学（語彙） Japanese Language Teaching (Vocabulary)	第二言語としての日本語の語彙習得	日本語 Japanese
佐藤 郁 SATO Iku	※	講師 Senior Assistant Prof.	ツーリズム・マネジメント Tourism Management	観光地のマネジメント/インバウンド観光	日本語 Japanese
鈴木 賢志 SUZUKI Kenji	リンク	教授 Prof.	日本社会システム論 Japanese Social Systems	北欧国家の社会システムと社会心理—日本との比較から学ぶこと	日本語 Japanese
瀬川 裕司 SEGAWA Yuji	※	教授 Prof.	映像文化論 Film Studies	高度な批評能力を身につける	日本語 Japanese
田中 牧郎 TANAKA Makiro	リンク	教授 Prof.	日本語学 Japanese Linguistics	日本語の謎を解く	日本語 Japanese
旦 敬介 DAN Keisuke	後日公開 予定	教授 Prof.	ラテンアメリカの歴史と文化 Latin American Studies	ラテンアメリカ研究	日本語又は英語 Japanese or English
戸田 裕美子 TODA Yumiko	-	准教授 Associate Prof.	日本の流通システム論 Japanese Distribution Systems	日本の流通システム	日本語 Japanese
長尾 進 NAGAO Susumu	リンク	教授 Prof.	武道文化論 Cultural Studies in Budo (Japanese Martial Arts)	スポーツと現代社会	日本語 Japanese
萩原 健 HAGIWARA Ken	-	教授 Prof.	舞台芸術論 Performing Arts	"Performances" in Daily Life and Art Scenes	日本語又は英語 Japanese or English
廣森 友人 HIROMORI Tomohito	リンク	教授 Prof.	心理と言語 Psychology and Language Learning	外国語学習の科学：理論・研究・実践	日本語又は英語 Japanese or English
藤本由香里 FUJIMOTO Yukari	※	教授 Prof.	漫画文化論 Manga Culture	サブカルチャー/ジェンダー/表現/社会	日本語 Japanese
眞嶋 亜衣 MAJIMA Aya	※	准教授 Associate Prof.	日本表象文化論 Japanese Representational Arts	学際的日本研究～ゼミでGlobal Japanese Studiesを極めてみる～	日本語 Japanese
清辺 泰雄 MIZOBE Yasuo	-	教授 Prof.	世界のなかのアフリカ Africa in the Contemporary World	地域研究(Area Studies): 食と旅から世界を知る	日本語 Japanese
美濃部 仁 MINOBE Hitoshi	-	教授 Prof.	宗教と哲学 Religion and Philosophy	哲学	日本語 Japanese
宮本 大入 MIYAMOTO Hirohito	後日公開 予定	教授 Prof.	日本漫画史 History of Japanese Comics	メディアと大衆文化/サブカルチャー	日本語 Japanese
森川喜一郎 MORIKAWA Kaichiro	※	准教授 Associate Prof.	日本先端文化論 Otaku Culture	マンガ・アニメ・ゲーム/デザイン/都市	日本語又は英語 Japanese or English
山脇 啓造 YAMAWAKI Keizo	リンク	教授 Prof.	多文化共生論 Issues in Intercultural Communities	多文化共生のまちづくり	日本語 Japanese
ワルド・ライアン WARD Ryan	-	講師 Senior Assistant Prof.	比較宗教論 Comparative Religious Studies	「死」の日本宗教史	日本語又は英語 Japanese or English

"リンク"をクリックするとリンク先へ移動します。ガイダンス前に必ず視聴してください。
※印の動画はOh-o!Meijiで配布している一覧からのみ閲覧可能です。
You can jump to each seminar's movie from the "リンク". Please watch it before joining the Individual guidance.
* For Guidance Videos marked "※", you can only jump to the movie from the list distributed via Oh-o!Meiji

01 ヴァシリューク, スヴェトラーナ (Svetlana Vassiliouk) 教授

1. 演習のテーマ / Theme

“Japan’s contemporary foreign relations in the Indo-Pacific Region (the IPR)”

2. 授業内容 / About the course

This seminar offers lectures, discussions, and readings on the topic of “**Japan’s contemporary foreign relations in the Indo-Pacific Region (the IPR)**,” while reflecting on the history, policy foundations, and contentious aspects of Japan’s relations with the region’s major nations.

During the two years in this seminar, students will prepare summaries, short reports, and news analyses pertaining to the topics covered in class, in addition to participating in field trips and attending public talks. At the end of the 4th year, students are expected to write and present in class their final research paper (thesis) covering one of the controversial and/or unresolved issues in Japan’s foreign relations in the IPR.

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3rd Year> This seminar will begin with an overview of Japan’s history of foreign relations in the Asia-Pacific, providing students with the historical frameworks for explaining and understanding various issues in Japan’s contemporary foreign policy. The seminar lectures, discussions, and readings will focus on a variety of core topics, such as Japan’s participation in major military conflicts of the 19th-early 20th centuries; the Pacific War (1937-1945) and its legacy in Japan and abroad, focusing on war remembrance and reconciliation; and other key issues in Japan’s relations with the key nations in the IPR.

<4th Year> The seminar will continue tracking key issues in Japan’s contemporary relations with the key nations in the IPR, while paying special attention to the rise of China and the impact of the declining power of the US in regional and global affairs. In preparation for the seminar’s final research project, students will study the origins, the history of negotiations, the current state, and the prospects for the settlement of the most contentious issues in Japan’s foreign relations in the IPR.

(2) **ゼミ論の有無 / Thesis** – The final research paper is required

(3) 評価方法 / Evaluation

<3rd Year> News Analysis 30%; Reports 30%; Summaries 20%; Participation 20%

<4th Year> Thesis and its presentation 60%; Summaries 20%; Participation 20%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Reading materials for each semester will be posted on the Oh-o!Meiji Class Web.

Required textbook for the 4th Year/Spring Semester: James D. J. Brown and Jeff Kingston, eds, *Japan's Foreign Relations in Asia* (Routledge: New York, 2018).

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Students must have a strong interest in learning about Japanese foreign relations and should be prepared to actively participate in all seminar sessions and events.

In addition, students should have good English skills to do well in this seminar (recommended minimum scores – TOEFL iBT 80, TOEIC 740, or IELTS 6.0).

5. 選考方法 / Screening

Students will have to write and submit by email a short essay in English describing their interest in this seminar and its study topics. Further details will be provided during the Seminar Guidance session.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

It is highly desirable that prior to taking this seminar, students have completed basic courses in Political Science and/or International Relations as well as the Academic English and/or Research Paper Writing courses.

7. その他 / Others

Seminar events and additional information will be announced in class.

02 鵜戸聡 准教授

1. 演習のテーマ / Theme

環境×文学×食

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

エコロジーの観点から文学や食文化にアプローチする。文献講読から始めて個人もしくはグループでの発表に移りたい。

希望があれば、鹿児島、奄美、茨城、台湾、ベトナム、タイなどでフィールドワークをしても良い。

<3年次 / 3rd Year>

水俣（熊本県）の作家で、水銀公害による水俣病を描いた『苦海浄土』で知られる石牟礼道子の随筆『食べごしらえおままごと』から読み始め、各自の興味関心・問題意識を育ててもらう。その後、他の文献を読んだり、発表をしたり、参加者と相談しながら進めていきたい。

<4年次 / 4th Year>

理論的な知識を得るために結城正美『文学は地球を想像する：エコクリティシズムの挑戦』を講読しつつ、各自の研究発表を行う。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

原則無し。希望者のみ対応する。

(3) 評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3rd Year> 平常点 (70%)、発表 (30%)

<4年次 / 4th Year> 平常点 (70%)、発表 (30%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

石牟礼道子『食べごしらえおままごと』中公文庫、2012年。

結城正美『文学は地球を想像する：エコクリティシズムの挑戦』岩波新書、2023年。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

自然や文学や食文化に興味のある学生を歓迎します。

5. 選考方法 / Screening

規定の人数を超えた場合のみ、面接を行います。

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

ふだん食べているものの来歴や産地を考えてみてください。日常的に読書する習慣をつけましょう。

7. その他 / Others

参考文献：

石牟礼道子『新装版 苦海浄土』講談社文庫

乾明夫『鹿児島県の食環境と健康食材：鹿児島大学食と健康プロジェクト』南方新社，2016年。

岩間一弘『中国料理の世界史：美食のナショナルリズムをこえて』慶應義塾大学出版会，2021年。

ウォン，セシリー他『地球グルメ大図鑑』日経ナショナルジオグラフィック，2023年。

ゴーシュ，アマタヴ『大いなる錯乱：気候変動と〈思考しえぬもの〉』以文社，2022年。

佐伯一麦『ノルゲ』講談社文芸文庫，2015年。

島尾ミホ『海辺の生と死』中公文庫，改版2013年。

焦桐『味の台湾』みすず書房，2021年。

庄野潤三『夕べの雲』講談社文芸文庫，1988年。

辛永清『安閑園の食卓：私の台南物語』集英社文庫，2010年。

張競『中華料理の文化史』ちくま文庫，2013年。

梨木香歩『海うそ』岩波現代文庫，2018年。

日本の食文化全集鹿児島編集委員会『聞き書鹿児島県の食事』農山漁村文化協会，1989年（各県版あり）。

03 吳 在烜 教授

1. 演習のテーマ / Theme

この演習は、日本企業のさまざまな活動に関する文献を購読し、ディスカッションすることによって、日本企業についての理解を深めるとともに、自分の「テーマ研究」を行うことによって問題設定と問題解決の方法論を学ぶことが目標です。そのためにまず日本企業のマーケティング活動や経営戦略、国際化・国際経営に関する文献を購読します。製造業だけではなく小売業やサービス業など様々な業種の事例を扱う文献を読み、日本企業の経営方式や国際化について勉強します。

そしてこのような学習の過程で自分の関心・興味のある分野（「テーマ」）を決め、そこの不思議な現象について「問い」を立て、それをしかるべき研究方法に沿って研究していきます。このテーマ研究の成果は論文の形式、あるいはプレゼンテーション形式（パワーポイント資料）にまとめて提出します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

3年次の春学期には、身近な事例を扱っているマーケティング関連文献（書籍）を読みます。3年次の秋学期には、多くの業種の事例を取り上げて経営戦略について説明している文献を購読します。毎回、一人あるいは二人が担当部分の要旨を報告し、皆でディスカッション理解を深めるように進めていきます。

<4年次 / 4th Year>

4年次の春学期には、日本企業の国際化と海外事業経営に関する文献を読み、日本企業のグローバル経営について学習します。秋学期はテーマ研究に集中して取り組みます。各自が自分のテーマ研究の進捗状況に合わせて報告を行い、コメントをもらって修正・補完して行きます。演習の終わりには、ゼミ合宿をしながら最終報告会を行います。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あり（論文の形式あるいはパワーポイント形式）

(3) 評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3rd Year> 平常点（40%）、発表（60%）で行う。

<4年次 / 4th Year> 平常点（20%）、発表（30%）、論文（50%）で行う。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

3年次の春学期には、『マーケティングを学ぶ』石井淳蔵著、発行：ちくま新書。

3年次の秋学期には、『ゼロからの経営戦略』沼上幹、発行：ミネルバ書房。

4年次の春学期には、『日本企業のグローバル・マーケティング』大石芳裕（編）、発行：白桃書房。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

企業経営に関心をもち、積極的にゼミに参加できる学生を望みます。

5. 選考方法 / Screening

書類審査（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。留学中の場合は別途案内します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

学部開設科目の「経営学A/B」を履修しておくことが望ましい。

7. その他 / Others

3年次の夏休みに海外合宿か国内合宿（9月）、4年次の年明けには国内合宿を行う。

04 大須賀 直子 教授

1. 演習のテーマ

翻訳を通して考える言語と文化

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

実際に翻訳をおこなうことが中心となります。春学期は、児童文学、ミステリーなどを訳して翻訳技術を磨きます。また、字幕翻訳の基礎を学び、実際に練習します。春学期の終わりには、各自が翻訳したい本または映画を選び、シノプシス（一種の企画書）を作成し、プレゼンテーションをおこなって秋学期に共同で翻訳する作品を選びます。秋学期は、完成度の高さにこだわって、1つの本または映画を完訳します。また、受講者の希望によって、翻訳に関する文献講読をおこない、研究発表をしていただくこともあります。

<4年次>

各自がテーマを決めて翻訳、字幕翻訳、または翻訳に関連する研究をおこない、発表します。

(2) ゼミ論の有無

本または映画の翻訳をおこなうか、または翻訳に関連する研究論文を書きます。

(3) 評価方法

<3年次> 平常点（20%）、発表（30%）、翻訳（50%）でおこなう。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、翻訳/論文（60%）でおこなう。

3. 使用テキスト

授業内で相談をして決めます。

4. 応募学生に望むこと

担当である・なしにかかわらず、翻訳の課題は必ずやってくる。課題の締め切りを守ること。授業内では積極的に発言すること。無断欠席は厳禁。

5. 選考方法

筆記試験とアンケート。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特にありません。

7. その他

夏休みに合宿をおこなう予定です。

05 大矢 政徳 教授

1. 演習のテーマ / Theme

言語学入門：言語は人間の最も重要な特徴です。言語をより深く知ることは人間をより深く知ることに他なりません。このゼミでの学びを通じて、人間についての理解を深めていきましょう。

将来、英語教員として活躍することを希望する皆さんはぜひ履修を検討してください。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

教科書の各章の内容を理解し、Study question やタスクについて調べた結果をプレゼンテーションする。

<4年次 / 4th Year>

3年次で取り上げた内容の中からいくつかを選択し、それについてさらに調べた結果をプレゼンテーションする。

言語学に関連した話題について教科書以外の情報源から検索し、それについてプレゼンテーションする。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

大学院進学希望者はゼミ論の提出を必須とします。それ以外の皆さんは任意です。

(3) 評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3rd Year>

授業への参加態度：50%、プレゼンテーション：50%

<4年次 / 4th Year>

授業への参加態度：50%、プレゼンテーション：50%

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Yule, G (2020) *The Study of Language* (7th ed.) Oxford University Press

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

言葉への興味を持った学生ならば誰でも歓迎です。

5. 選考方法 / Screening

希望学生には面談を行います。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

英語以外の言語についても学習してほしいです。

7. その他 / Others

質問は以下のメールでお願いします。

masanori_oya2019@meiji.ac.jp

06 小笠原 泰 教授

1. 演習のテーマ / Theme

デジタル・テクノロジー革新とグローバル化による世界の **Grand Transformation** について考える - 20年後に **SURVIVE** しているためには -

社会のシステムは、社会、経済、政治関係によって成りたっていて、歴史的にこの三つの力関係は大きく変化 (**Grand Transformation**) してきています。現在は優位になりつつある経済と権威と支配力 (パワー) を失いつつある政治 (国家) が対抗している状況と言えるでしょう。

「デジタル・テクノロジー革新と融合したグローバル化」により社会を開いたことで、個人と企業がよりパワーを獲得する一方、国家はパワーを失ってきています。その中で、先進国では、国家に対してパワーを強めた(自律した)個人とパワーを減じている国家に依存する、パワーが弱まった個人 (パワーの低下が止まらない国家は、彼らをパワーの再強化に利用します) への二極化 (分断と格差) が進行しつつあります。つまり、国家と企業と個人の3者間のパワーバランスが、「開いた世界」を志向する人々 (**anywhere**) と「閉じた世界」を望む人々 (**somewhere**) との間で異なっているということです。

トランプ前大統領を選出した大統領選挙や **Brexit** の国民投票等の結果が示したように、この分裂は拮抗していて、自分の陣営により多くの人を引き込もうとする綱引きの状態であり、それは現在も続いていると思います。パワーが低下する国家は、国民国家という存在の性格上、より強い主権行使を望むので、コントロールしやすい「閉じた世界」に国民を引き込むことを望みます。事実、国家は、コロナウイルスの世界的蔓延を好機到来とし国家権力の再強化に利用したと思います。しかし、経済的裏打ちのない国家権力の強化は長くは機能しません。

問題は、今後の世界は「開いた社会」と「閉じた社会」のどちらに向かうかにあると思います。自由民主主義思想 (選択肢の拡大と選択の自由) と市場経済を批判するのは構わないのですが、経済力が弱まり、パワーが減じていく国家は、果たして「閉じた社会」を望む人々を救えるのでしょうか。強いアメリカを主張するトランプ前大統領ですが、彼が導く先は、かえって、アメリカはイノベーションという成長のモメンタムを失い、国際社会での強さ、そして、権威さえも失うのではないのでしょうか。中国も現状政策の延長戦上ではアメリカと同じ道を歩む可能性が高いでしょう。

ポピュリズムの隆盛の本質は、多様化を認め、変化が当然の「開いた社会」を望む (あらゆる変化に可能性を見だし、国を消極的にしか必要としない) 人々と、多様化を認めず変化を拒否する「閉じた世界」を望む (あらゆる変化をリスクと感じ、国を積極的に必要とする) 人々の分裂が起きているということです。かつてのように、国境という高い壁を前提に国家が主権を単独で行使し、そのなかで企業・市場と国民 (個人) と国家のインタストは当然一致するという三位一体的な考えは急速に弱まりつつあると言えます。事実、自由民主主義思想がグローバルな形で個人や企業・市場に共有化される中で、国家のパワーの低下と言う大きな流れが反転することはないと想定しています。つまり、今後の世界では、もはや、国家は主権を単独で行使できる絶対的な存在ではなく、国家はグローバル化する世界の中でのプレーヤーの一つであると考えることが必要となります。つまり、企業・市場、個人と並んだ、相対的プレーヤーとしての国家とは、どのような存在であり、どのように変質していくべきであ

るかを見極める必要があります。それに応じて、企業や社会や個人の在り方も変化します。

このような急速な環境変化を踏まえて、ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバル化」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20年後を見据えて働くとは何かを考える、つまり、どうSURVIVEするかを考えるのが、ゼミのテーマです。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

- ★ 疑念と批判的姿勢をもって、データと資料に基づいて考える態度を、個別ケースを題材として、身に着けるようにします。
- ★ グローバル化の進展とデジタル・テクノロジー革新による環境の変化を包括的に捉え、グローバル化とはなにかについての認識を多角的に深めます。
- ★ 国家のパワーの低下と企業と個人のパワーの増大と社会の多様化について多角的に議論します。
- ★ ゼミ生各自の向かうべき方向性を見出す基礎を固めたいと思います。

<4年次 / 4th Year>

- ★ ゼミ生一人一人が個人として、どのように「デジタル・テクノロジー革新と融合した急速なグローバル化」という環境変化に適応し、多様化する「開いた世界」の中で、20年後を見据えて働くとは何かを考えていきます。
- ★ 上記を踏まえて、課題テーマについてのグループワークを行い、その結論をまとめてグループで発表します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

ナシ（代わりに卒業発表を行います）※ゼミ論を希望する人は、相談してください。

(3) 評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3rd Year>

春学期・秋学期：定期発表(40%) 議論への参加・貢献度 (30%) 各期終了レポート(30%)

<4年次 / 4th Year>

春学期：定期発表(40%)、議論への参加・貢献度(30%)、春学期終了レポート(30%)

秋学期：定期発表(30%)、卒業グループ発表(70%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

特に指定しません。 課題図書は適宜指定します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

加速するグローバル化とテクノロジー革新の中で、そのダイナミックな変化に興味を持ち、知的好奇心が旺盛で、多様性を受け入れられる学生を望みます。そして、自分のリミッターを外してみたい人を望みます。

5. 選考方法 / Screening

事前課題と面接とします。留学中の学生は、ZOOM 面接とします。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar
デジタル・テクノロジーの急速な変化についての感度を高めておいてください。そして、
ニュースやマスコミで多用されるグローバル化とポピュリズムとは、一体何を意味してい
るのかについて考えてみておいてください。
7. その他 / Others
夏休みに、2泊3日のゼミ合宿を行う予定です。

07 小野 雅琴 専任講師

1. 演習のテーマ / Theme

広告の理論実証研究

広告のゼミと聞いて、皆さんはどんな活動をイメージしますか？「広告鑑賞」あるいは「広告制作」かもしれませんが、そうではなく、どんな広告の結果として、何が起こるか、を探究することです。知識のないまま、実際の広告実務を観察しても、その答えは得られません。難解な「理論」を習得し、自ら「実証」を実施して初めて、その答えが得られるのです。当ゼミは、世界最先端の広告理論を身に着けた上で、統計解析技法を駆使して、理論の実証を行うことのできる人財を育成することを目指します。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

一年目は、インプット期間です。理論を身に着けるということがどういうことかをオススメ論文の輪読によって体得します。他方、実証を行えるようになるためにフリーソフトRを用いて実習を行います。

<4年次 / 4th Year>

二年目は、アウトプット期間です。各自が気になる論文を探してきて、その論文の中で提唱されている最新理論を、実証ツールを使って評価します。具体的には、例えば、欧米の理論が日本ないしアジアの広告実務に適用可能かを論じるゼミ論を執筆します。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

有り。

(3) 評価方法 / Evaluation

出席状況、ゼミにおけるパフォーマンス（参加姿勢、課題提出、口頭発表、グループワークなど）、および卒論（4年次のみ）によって成績評価を行います。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

全員に購入していただくテキストはありません。参考書はその都度紹介します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

ゼミの皆さんには、2年間にわたって広告の理論実証研究を学ぶための強い持続力、そして、同じ目標に向かって歩む同期生と協働しようとする高い協調性を望みます。

5. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。面接に先立って、志望理由や自己PRに関するエントリーシートを提出していただきます。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

特にありません。入室前よりむしろ入室後の学習姿勢に期待します。

7. その他 / Others

08 岸 磨貴子 専任准教授

岸ゼミは「デザイン」を実践&研究するコミュニティです。コミュニケーションのデザイン、メディアのデザイン、場のデザイン、問題解決のデザイン、教育・学習環境のデザインについて実践と理論を往復し、専門性を高めていきます。

テーマ

- ・アートベース・リサーチ
- ・教育工学・学習環境デザイン(特にワークショップ)
- ・メディア制作/表現 (特に教育メディア研究)
- ・多文化共生とコミュニケーション

内容

実践と理論を往復しながらゼミ活動を行います。

4年次/文献輪読または実践 (木曜日3限)

3年次/実践 (木曜日4限)

特別演習AまたはB/研究 (木曜日5限)

ゼミ論

卒論は特別演習で行い、ゼミでは以下の3つを評価します。

- ・研究活動の成果報告①ポスター発表 (4年次)
- ・研究活動の成果報告②抄録執筆 (4年次)
- ・アートベース・リサーチのアウトプット (3年次)

授業

ゼミ研究の土台となる知識やスキル習得は授業で行います。以下の授業のうち履修可能な科目を受けてください。

- ・メディアのデザイン→メディアリテラシーA
- ・場のデザイン→インターネットと社会
- ・教育・学習環境のデザイン→教育の方法と技術
- ・コミュニケーションのデザイン→共生と学びのデザイン論
- ・ICTスキル→アカデミックICTリテラシー
- ・問題解決のデザイン→アクションリサーチ (大学院)

その他

ゼミ中の雰囲気を知りたい→

ゼミで読む文献を知りたい→

選考日程や方法を知りたい→

ゼミ生の研究テーマを知りたい→

岸先生のことを知りたい→



kishiseminar.meiji



ウェブページ

場のデザイン×ICT岸



1. 演習のテーマ/ Theme

“Project based learning in the hospitality and travel industries.”

Japan tourism development has experienced an exponential growth in the past years. This course is designed to provide students with an insight into and understanding of the nature of hospitality and travel businesses. Students will be working in small task groups to fulfil a remit in consultation with a hospitality or travel organization, and design and conduct appropriate research to complete their task. The course enables students to apply knowledge acquired and develop further the skills of research, team working, time management, communication and decision-making.

2. 授業内容/ About the course

(1) 授業の進め方/ How the course is conducted

<3 年次 / 3rd Year>:

This course will be conducted in English language. The weekly activities enable students to gain first-hand experience in data collection and analysis, and enhance their critical thinking and writing skills. Students will have the opportunities to refine their interactive skills by meeting people from all walks of life.

<4 年次 / 4th Year>:

Students have the option of extending their project from the previous year, or start a new one. The extended project must relate to academic debates that are relevant to the topic under discussion.

(2) ゼミ論の有無/ Thesis: Not required.

(3) 評価方法/ Evaluation

<3 年次 / 3rd Year>

Attendance and participation 50%; Report 50%

<4 年次 / 4th Year>

Attendance and participation 50%; Report 50%

3. 使用テキスト/ Textbook(s)

Reading materials will be distributed weekly.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

- 1) The seminar sessions will be in English. Students should have adequate English language skills to do well in this course.
- 2) Applicants need to be interested in the hospitality and travel businesses.
- 3) Students are expected to participate actively in all activities and embrace teamwork.
- 4) Students are required to attend seminar sessions regularly and be punctual for class.
- 5) Any student who is absent twice or more times, except for absences that fall under documented emergencies, will receive a failed grade.

5. 選考方法 / Screening

- A short essay and an interview.
- Students will submit a short essay in English describing their interest in this seminar via email to the tutor, two days before the interview.
- Essay specifics: Arial font; Font size 12, 1.5 spacing, 200 words (+/-10%).

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

None.

7. その他/ Others

- Seminar events and additional information will be announced in class
- This syllabus/schedule may change depending on participant numbers and the project commissioned by industry practitioner.
- The seminar may offer excursions to experience fieldwork.
- Students will incur small out-of-pocket expenses.

10 小谷 瑛輔 准教授



1. 演習のテーマ / Theme

近現代日本のコンテンツ・メディア・物語

このゼミでは、近現代日本の出版物に発表された物語性を持つテキスト・批評的テキスト・それらを掲載するメディア・関連する文化事象などを対象として、各自が関心のあるアプローチから研究していきます。テキストだけでなく、その背景にあるコンテキストやメディアをも含めて総合的に分析する力を養いつつ、相互の関心や知識から学び合います。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

扱うテキストを選ぶ担当者を1回ごとに決め、その人が決めたテキストについて、読んできた参加者全員でディスカッションする、という形が基本となります。担当者は調査や研究の成果を発表して、その研究内容についてみんなで検討していきます。読むテキストをゼミ生が選び、ゼミ生が司会し、ゼミ生同士でディスカッションするのが中心です。通例、教員がコメントするのは授業の最後の15分程度だけです。また、ゼミ生の関心やアイデア次第で、学びの幅を広げるための多様な活動を取り入れていくこともできます。

<4年次 / 4th Year>

3年次よりもさらに幅を広げ、さらに掘り下げて、多様なテキストを扱っていきます。

ゼミ論に取り組む人は、「演習」に加えて、大学院生とともに互いの研究について報告し合い議論し合うことのできる「国際日本学特別演習 A/B」を履修し、そこで自身のテーマについてもディスカッションを行い、さらに教員の助言やサポートを受けながら、卒論の完成を目指します。

近年の卒論題目例

- ・スライム表象の歴史から見る「転生したらスライムだった件」について
- ・太宰治「走れメロス」と「勇者」について
- ・「ボッコちゃん」改訂の変遷からみる星新一の表現
- ・川端康成と中原淳一が生み出す「少女」像

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

希望者のみ。「国際日本学特別演習 A/B」で卒論指導を受けることができます。

(3) 評価方法 / Evaluation

平常点 (50%)、発表 (50%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

基本的には、毎回、発表者が選んだテキストを参加者全員で読んでいきます。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

活発にゼミにコミットする学生の応募を期待します。

5. 選考方法 / Screening

面接によって関心を確認の上、入室を決定します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

自分が掘り下げて研究してみたいことを、色々な本を読みながら探っておきましょう。

7. その他 / Others

ゼミ行事は履修者の希望に応じて決めます。

11 小森 和子 教授

1. 演習のテーマ / Theme

【日本語のなぜ？／日本語教育】

「お客さま、こちらにお名前をお書きください」というのは丁寧で自然な日本語ですが、「奨学金に応募するので、先生、推薦状をお書きください」というのは、失礼な印象を与えます。どちらも「お書きください」と敬語を使っているのに、後者はなぜ失礼な印象を与えてしまうのでしょうか。また、初級の日本語学習者は「*昨日薬を食べました」と言ってしまうことがあります。なぜこのような間違いをしてしまうのでしょうか。

この演習では、さまざまな日本語のなぜ？を取り上げ、その分析を通して、日本語特有の現象、学習者の視点から見た日本語の難しさ、日本語と他の言語の違いについて考えていきます。

なお、2025年度は不開講となるため、3年次の1年間のみとなります。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

春学期は、さまざまな日本語のなぜ？を取り上げ、どうしてそのように言うのか・言わないのか、について、輪読とディスカッションを通して考えます。秋学期は、日本語教育に焦点を置き、留学生からデータを収集したり、実際に留学生が話したり、書いたりした日本語を分析しながら、なぜ学習者はそのような間違いをするのか、どう直し、どう教えれば良いのかを考えます。

<4年次 / 4th Year>

不開講です。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

3年次のみの開講のため、ゼミ論はありません。

(3) 評価方法 / Evaluation

出席と議論への参加 (20%)、発表 (30%)、レポート (50%)

3. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

日本語教育に興味がある人、日本語学習者や日本語が母語でない人と関わるのが好きな人、日本語やさまざまな外国語に興味がある人、大歓迎です。

4. 選考方法 / Screening

面接によって選考します。面接の際には、応募理由、これまでの言語系科目の履修状況、日本語教育学に関する基礎知識の有無などを確認します。

5. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

「日本語教育学 (語彙)」を履修しておくことが望ましいです。

12 佐藤 郁 専任講師

1. 演習のテーマ

インバウンドツーリズム、観光による地域活性化

本演習の目的は、身近な観光という現象を通じて、世界の中の日本、日本から見た世界を知ること、そして観光の本質である「地域との関わり」への理解を深めることです。本ゼミでは学生が主体となり、地域や企業と連携したPBL(Project-Based Learning)型の学びを通じて、チームワーク、企画力、交渉力、プレゼン力(「想い」を伝える力)の習得を目指します。同時に、フィールドワークやグループワークを通じて、様々な立場や範囲から物事を多角的にとらえる視点を養います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

- 前半は、観光に関わる企業や行政機関と連携し、観光の地域での役割やターゲットに合わせた観光情報の発信の仕方について学びます。さらに、4～5名のグループ単位でフィールドワークを実施し、中野区の観光資源を発掘して、その魅力を観光情報サイトで発信してもらいます。
- 後半からは、課題解決型のプロジェクト学習が中心となります。提示された課題に基づき、中野区で訪日外国人観光客を対象にしたプロジェクトの企画・立案をグループに分かれて行います。最後に、観光に関わる企業や行政機関の方々に向けてコンペ形式のプレゼンテーション大会を実施します。

<4年次>

観光に関するテーマを各自で設定し、最後にゼミ論をまとめる。全体で構想発表、中間発表および最終発表会を実施します。

(2) ゼミ論の有無

有

(3) 評価方法

3年次：平常点、グループワーク、プレゼンによって総合的に評価する。

4年次：平常点、発表、論文によって総合的に評価する。

3. 使用テキスト

特に指定しない。その都度必要なものを配布する。

4. 応募学生に望むこと

地理の基礎的な知識があることが望ましい。(3年次は特に)グループワークによるプロジェクト型学習が中心となるので、フットワークが軽く、チームでの作業に積極的に取り組める方を希望します。共創型ディスカッションを通じて、ゼロから新たなアイデアや価値をつくるプロセス、未来志向のビジネスや地域活性化に興味のある方を歓迎します。

また、授業時間外にチームで主体的に活動することも多くなりますので、それを前提に履修するようにしてください。授業時間外で地域視察などを行う場合もあります。その他、希望により授業時間外に複数の任意参加のプロジェクトを設定することがあります。何事にも積極的に参加できる方を希望します。

5. 選考方法

小論文、志望動機書、自己紹介書、自己PR動画、の4点による選考を行う。2年次春学期までの成績も参考にする。場合によっては追加で面接を実施することがある。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

「ツーリズム・マネジメントAB」を履修しておくことが望ましい。観光や地域活性化に関するニュースメディアや書籍に興味をもち、常にアンテナを張っておいてください。

7. その他

連携機関の都合や受講生の要望・理解度により、内容を変更する場合があります。

13 鈴木 賢志 教授

1. 演習のテーマ / Theme

「日本とスウェーデンの社会から学ぶ」本演習は、日本とスウェーデンの社会に焦点を当てた「国際日本学」の実践を目的とする。すなわち、スウェーデンの社会について学び、それを日本に発信するとともに、日本の社会と比較し、共通点や相違点を明らかにする。さらに、スウェーデンを手本あるいは反面教師として、日本が得られる教訓や課題について考察する。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

春学期は、スウェーデンの公式サイト Sweden.se から自分の興味に沿ったトピックを選び、その邦訳をベースとした発表を通じて、スウェーデンの様々な側面に関する理解を深める。秋学期は、スウェーデンの小学校社会科の教科書の輪読と、それに基づく議論を通じてスウェーデン社会に対する理解を深める。またテーマごとにいくつかのグループに分かれて研究テーマを設定し、文献精査や関係者へのインタビューを行う。

<4年次 / 4th Year>

春学期は、統計データを用いて日本とスウェーデンを比較する手法の習得や、スウェーデンに関する文献の輪読を行いつつ、卒業発表に向けた研究テーマと研究枠組みをグループで検討する。秋学期は、卒業発表に向けて研究を仕上げ、最終的に一般社団法人スウェーデン社会研究所が主催する研究講座にて一般向けに発表会を実施する。

なお、スウェーデンを含め世界を見据える上で、日本社会の現状をきちんと理解しておく必要があるため、適宜日本の社会状況についての議論も取り入れてゆく予定である。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

上記の卒業発表は、ゼミ論として論文の形式を取っても、プレゼンテーション中心の形式でも構わない。

(3) 評価方法 / Evaluation

各期の発表、レポート、および授業への取り組みを考慮に入れて評価する。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

特に指定しない。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

ゼミの活動は、スウェーデン大使館等のイベント参加や国内外での研修(参加は任意)など様々な広がりをもって行うので、何事にも積極的に取り組む方の参加が望ましい。

5. 選考方法 / Screening

小論文(応募理由)の評価を中心に、2年次春学期までの成績を参考にしつつ選考する。

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

特に求めないが、説明会には参加していただきたい。

7. その他 / Others

14 瀬川 裕司 教授

【2024年度の前期は、教員が「在外研究」のために日本におりません。そのため、後期に週2コマの授業を実施します（同じ曜日の3・4時限に連続して授業をおこない、3時限を「演習A」、4時限を「演習B」とする）。ご注意ください】

1. 演習のテーマ

高度な批評能力を身につける

本を読んだあと、あるいは映画を観たあとに、「面白かった」「つまらなかった」といったカタコトの〈感想〉ではなく、自分の意見を論理的に展開できる大学生は少ない。〈コメント力〉あるいは〈批評力〉は社会人になってからも重要なものだが、わが国の学校教育では、この能力の養成は軽視されてきた。このゼミでは、小説、演劇、映画、絵画、音楽などあらゆる対象に的確な言葉で批評をおこなえる能力を養うことを目標とする。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次> 【前期は教員が日本にいない予定のため、後期に「演習A」「演習B」の両方を開講し、同じ曜日の3限・4限に続けて授業をおこないます】毎週の授業に対してひとつの映画作品、小説などを指定する。参加者は、授業日までにその作品に接し、資料を見るなどして批評文を用意する。授業時には、参加者はたがいの批評を比較して意見を交換し、分析能力およびコメント力の向上をめざす。参加者の希望に応じて、演劇や音楽なども考察の対象とする。映画がテーマとなる場合は、テーマを決めて何本かの作品を続けて研究したい。

<4年次> 【通常どおり、前期と後期に週にひとコマずつ授業をおこないます】各参加者が、中心に据えて研究したい映画作家・小説家・ジャンル・アーティスト等のテーマを決めてゼミに臨む。授業では、ひとりが自身のテーマに関して発表をおこなったのち、全員で意見を交換する。必要な場合、授業時間中に関連作品をDVD等で鑑賞する。最終的に、それまでの発表をまとめるかたちで年度末にゼミ論が提出されることが望ましい。

(2) **ゼミ論の有無** 参加者は原則として学年末にゼミ論を提出してほしいが、ゼミ論執筆を希望しない場合はレポート提出、口頭発表等で代用できる。

(3) 評価方法

<3年次> 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

<4年次> 毎回授業時の批評文および発表で評価する。

3. **使用テキスト** 授業時に指示する。

4. **応募学生に望むこと** 映画や文学、演劇など国内外の文化全般に関心があり、積極的に適格な意見を述べられるようになりたいと考える学生が望ましい。

5. **選考方法** 希望者は全員入室を認める（アンケートなどを実施する場合もある）。

6. **演習入室までに学習してほしいこと** 蓮實重彦（はすみ・しげひこ）の映画関係の著作を演習開始前に2冊程度読んでおくことが望ましい。

7. **その他**

15 田中 牧郎 教授

1. 演習のテーマ

日本語の謎を解く

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

あたり前のように使っている日本語に潜む謎を解明していきます。日本語は成り立ちに未解明なことが多く、研究し甲斐があります。文化や社会を支えている言葉の役割を観察することも興味が尽きず、身近なものを深掘りする活動は、本質を考える力を養います。

入室1年目は、共同で取り組むテーマを決めて調査を行って研究を深めていきます。テーマは相談で決めますが、例えば次のようなものが想定されます。学ぶ予定の方法も示します。

日本語の成り立ち：片仮名は何のためにある？ 『万葉集』の不思議な漢字の意味することは？

定着する新語と消失する新語の違いは？ 「目」にはいくつの意味がある？

文化から見た日本語：語尾で特徴付けられるキャラ 言葉にこだわって小説を読む 歌の言葉の系譜 翻訳文学に見る日英言語比較 ことわざに潜む日本文化

社会から見た日本語：言葉の性差はなくなる？ 演説のうまい政治家は？ 外来語は言い換えられる？ 危機（戦争・災害・疫病）に出現する変な言葉 母語教育の標準

調査研究の方法：自身の言葉を内省する メディアやフィクションの言葉の分析 フィールドワークによる言葉の収集 古典資料や対訳資料の調査 コーパスの作成と活用

入室2年目は、個人のテーマによっても研究に取り組んでももらいます。これまでのゼミ生が取り組んだ研究テーマの例には、次のようなものがあります。

現代日本語における慣用語の意味用法の変化／文学作品における感情を表すオノマトペ／ソーシャルゲームのキャラクター言語／『古今和歌集』から見る和歌翻訳／日英訳文から見る両言語の認知の違い／ミステリー小説における叙述トリックの表現／“いま”を映し出す仮面ライダー主題歌／小学校低学年国語教科書における語彙の変遷／外国人材受け入れに関する社説を対象とした批判的談話研究

(2) ゼミ論の有無

本人の希望によります。執筆を希望する人は4年次に「特別演習」を履修してください。

(3) 評価方法

平常点（50%）、レポート（50%）。

3. 使用テキスト

使用しません

4. 応募学生に望むこと

言葉にこだわること

5. 選考方法

面接によります。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

日本語学A・Bを履修してください。入室後に履修しても構いません。

16 旦 敬介 教授

1. 演習のテーマ

映画や音楽、文学、食文化を通してラテンアメリカとカリブ海地域とアフリカを考え、世界に関する理解を深める。

2. 授業内容・進め方

このゼミは1年単位で履修できるものとし、2年間の継続的コミットメントは求めない。継続したければ継続できるが、学年による区分はとくになく、同形式で2年目も発展的におこなう。4年からの新規加入者も受け入れる。卒論・ゼミ論文を書くことを希望する4年生には論文指導をする。

春学期の前半は受講者それぞれがすでにもっている知識を共有する(教えあう)期間である。その後は主題を決めて、それに沿ってセレクトしたラテンアメリカ諸国・アフリカ諸国で作られた、あるいはそれらの国々を描いた映画や音楽、その他の作品等をメンバー全員で同時に観賞・共有する。その後、その作品についての調査やディスカッションを通じて、その作品について、その社会について、また映画や音楽などのメディアの特性についての考察をおこなう。フィクションの作品と現実との関係性についての見識を深めることもねらう。また、毎回、ゼミ・メンバーが交代で、自分が興味をもっている作品や作家、音楽、食文化などについて、短いプレゼンテーションをして他のメンバーに紹介し、知識を共有する。

セメスター末には、ひとつの作品等を選んで、それに関する短い批評文をアカデミック・ライティングの形式にのっとり書きあげる。各セメスター中に1回、この地域の食文化の一部をなす料理を自分たちで作る、体験する機会を設けたい。そのための調査も活動の一部となる。

ここで扱っている地域を各自で訪問することを推奨する。その旅行企画案の作成あるいは報告書をもってセメスター末の課題に代えることができる。

このゼミは1年単位で履修できる。2年続けて履修することもできる。

3. ゼミ論の有無

推奨するが、要件とはしない。希望する4年生には論文指導する。

4. 評価方法

教室内外の活動 (70%)、期末提出課題 (30%)

5. 選考方法

面接によるが、基本的には誰でも受け入れる。

6. 応募学生に望むこと / 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミは参加者が形づくるものである。自分の関心のある主題について自発的に調査するのが主眼である。「ラテンアメリカの歴史と文化」あるいは「Latin American Studies」の授業をすでに2セメスター履修していない人は、2024年度に履修することを推奨するが、要件とはしない。英語での履修希望者がいる場合には英語で開催する可能性がある。English speaking students are welcome, but not all resources and activities may be in English.

17 戸田 裕美子 Toda, Yumiko 准教授

1. 演習のテーマ / Theme

日本的流通システム

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

- ① 日本的流通システムを主題としたテキストの輪読と質疑応答
- ② 特定の研究テーマについて、研究プロジェクトを実施
- ③ 卒業論文執筆の前哨戦として、12,000文字程度の小論文を執筆
- ④ 4年生の卒論発表に出席し、質疑応答に参加

<4年次 / 4th Year>

- ① 卒業論文の中間発表と質疑応答
- ② 卒業論文の執筆

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

3年次 12,000文字程度の小論文、4年次 20,000文字程度の卒業論文を執筆する

(3) 評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3rd Year> 平常点 (40%)、発表 (30%)、小論文 (30%)

<4年次 / 4th Year> 平常点 (40%)、発表 (30%)、卒業論文 (30%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

使用テキストについては、初回のゼミで伝達をする。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

論文の執筆は、要約力、批判力、構成力といった知の3大要素を効果的に育み、実社会でも大いに役立つ問題解決能力を最も有効に成長させる活動です。こうした考えのもと、本演習は、論文の執筆を中心的な活動に据え、その準備のために輪読や質疑応答、研究報告をプログラムします。論文の執筆を大学生活の集大成にしたいと考えている学生を歓迎します。

5. 選考方法 / Screening

エントリーシートの提出と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

特にありません。

7. その他 / Others

特にありません。

18 長尾 進 教授

1. 演習のテーマ

スポーツと現代社会

2020夏季オリンピック・パラリンピック東京大会は2021年に延期され、国民世論が2分するなかで開催されました。コロナ禍にあって日本や東京がこの五輪とどう向き合ったのか。レガシーを遺せたのか。2024パリオリンピック・パラリンピックも1年後に迫っています。五輪の今後のあり方を考えることは、ゼミとしての大きなテーマです。また、多くのスポーツにおけるビデオ判定方式の導入、eスポーツ、スポーツとジェンダーの関係、スポーツ選手の政治的意思表示など、スポーツの在り方そのものが変わりつつあります。そうした時代の変化とスポーツとの関係性について議論を深めることも、ゼミの特徴です。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

学期前半は、長尾からその時々のスポーツをめぐるトピックを提供します。それをもとに討議し、理解を深めます。中盤は、各自何か一つのテーマを掘り下げ、資料を集めて分析し、プレゼンテーションをしてもらい、討議をします。学期末には、それらをレポートとしてまとめます。3年次・4年次とも基本的な進め方は、上記の通りです。

(2) ゼミ論の有無

国際日本学部は留学する人も多いので、いわゆる卒論というスタイルはとりません。各学期末において、期末レポートを提出してもらいます。その時々のテーマによる学期完結型のレポートでもかまいませんし、4学期継続したテーマでもいいです。

(3) 評価方法

平常点（討議への関心度、意欲）40%、プレゼンテーション（資料収集・取材意欲を含む）30%、期末レポート30%

3. 使用テキスト

テーマに関わりのある資料や書籍、URLなどを、そのつど紹介します。

4. 応募学生に望むこと

プレゼンにしても、レポートにしても、「現場」での取材や一次資料が大きな説得力をもちます。スポーツ場面への実際の取材（アンケート、インタビューほか）など、アクティブな姿勢を望みます。

5. 選考方法

募集定員をめどに、選考します。関心のあるスポーツ関連のテーマと、そのテーマを選んだ理由、および研究計画を記述する欄を含む、エントリーシートを書いてもらいます。基本的には、そのエントリーシートと面接（Zoom）をもとに選考します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

オリンピック・パラリンピックについては、インターネット等を通じて記事や動画に接することができます。これらに日ごろから関心をもって接してください。

7. その他

冬季または春季休暇中にゼミ旅行合宿（1泊2日程度）を行います。研修先は皆さんと話し合って選定します

19 萩原 健 Ken Hagiwara 教授 Prof.



【Notice】 Basically, this seminar will be held in Japanese, but English is highly welcome. You can find the seminar description in English via the following link:

<https://drive.google.com/file/d/1buA6TgQ-C4IX8tHdxtc0vgJwOz5EyMqK/view?usp=sharing>

1. 演習のテーマ / Theme

“Performances” in Daily Life and Arts Scenes (日常生活と芸術シーンでの〈パフォーマンス〉)

〈パフォーマンス〉と呼びうる現象なら、何でも研究テーマにできます。日常の身振りや立ち居振る舞い、言葉遣いといったパフォーマンス、あるいは、伝統芸能や現代演劇といった舞台芸術を始め、芸術全般でのパフォーマンスを、ご自分の関心に即して追究できます。

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

ご自分の関心に即して、主張を明らかにし、論文を作成します。授業時間での活動は、論文作成作業の進捗報告と、他のメンバーとの意見交換です(この意見交換で視野を広げていきます)。

<3年次 / 3rd Year>

【春学期】ご自分の関心を引く計 10 点の情報源(書籍、論文等)を集めます。10 点それぞれについて、概要と、ご自分の論文で使いたい部分(=引用)を一覧にし、これに、結論となる仮の主張を付して、学期末に提出します。【秋学期】論文の構成を考えます。目次を作り、各章および各節での概要を記します。概要入り目次の完成後、本文の執筆を始め、学期末に論文を提出します。

<4年次 / 4th Year>

論文を拡充させます。さらに 10 点の情報源、およびそれらからの引用を加え、主張、目次、本文に手を入れます。研究テーマを変更する場合、計 20 点の情報源を集め直すことから始めます。

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

あり (3 年次は日本語 1 万字以上または英語 5 千語以上。4 年次はその倍)

(3) 評価方法 / Evaluation

<3年次 / 3rd Year>各時間での進捗報告(30%)、発言(30%)、学期末提出課題(論文)(40%)

<4年次 / 4th Year>春学期は同上、秋学期はそれぞれ 20%、20%、60%。

3. 使用テキスト / Textbook(s)

各メンバーの関心に即して、情報源について案内します。

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

積極的な参加、また個々の作業を継続的に進めてくださることを強く期待します。

5. 選考方法 / Screening

作文と面接。作文は日本語 1000 字または英語 500 語で、面接の前々日までに hagi@meiji.ac.jp へ提出。内容は次の 3 点をできるかぎり一貫させたもの: 「パフォーマンスという概念」「現在の関心」「大学を離れたあとにしたいこと」

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

〈パフォーマンス〉(ご自分の理解で OK) に関わる、ご自分の関心を引く書籍を最低 3 点、読んでください。1 点を読み終えるたび、「著者」「書名」「刊行年」「要旨」「自分の意見」を hagi@meiji.ac.jp へ伝えてください(=ひと月に 1 冊のペースで十分こなせます)。

7. その他 / Others

課外活動についてはメンバー全員の話し合いで決めます。

20 廣森 友人 教授

1. 演習のテーマ

外国語学習の科学：理論・研究・実践

本演習の目的は「第二言語習得研究」に基づいて、効果的な外国語（英語）学習法の理論を学び、自分たちで調査・実験を含めた研究を行い、得られた知見を自ら

実践できるようになることです。外国語を学ぶやる気 (will) と技能 (skill) を高める方法を身につけることで、学習成果の最大化を目指しましょう。



2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

演習を進める上での基礎となる3つの力 (①英語力, ②研究力, ③プレゼン力) を強化します。第二言語習得に関する英語文献の読解や英語でのプレゼンを行ったり、ゼミ全体で興味・関心のあるトピックについて共同研究を行います。

<4年次>

3年次に学んだことを踏まえ、グループ単位 (希望によっては個人単位) で興味・関心のあるトピックについてゼミ論 (卒論) を執筆します。授業では、定期的に各グループの進捗状況を報告しあい、他のゼミ生や教員、院生からのフィードバックを受けます。

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

出席・議論への参加状況 (30%), 発表 (30%), レポート (40%)

3. 使用テキスト

履修者の興味・関心を踏まえて決定します。

4. 応募学生に望むこと

- ・研究室のウェブサイト (<https://hiromori-lab.com/>) を事前に確認し、自分の関心と合致するかどうかを十分に見極めた上で応募してください。
- ・私の専門はやる気 (動機づけ) です。やる気は伝染します。やる気に満ちたゼミ生を歓迎・応援します。



5. 選考方法

小論文 (テーマは「このゼミを希望する理由、このゼミで勉強したいこと」と面接。入室試験では、志望動機に基づいた面接を行います。詳細は、個別ガイダンスの際に指示します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

演習担当教員の学部科目「心理と言語 A・B」を履修しておいてほしい (あるいは、ゼミと同時に履修してほしい) と考えています。

7. その他

夏期休業中にはゼミ合宿を行います。その他、学生の自主性と教員の思いつきによって各種行事・イベント (例: BBQ, ゼミスポーツ大会, ゼミ研究発表会, OB・OG・現役生合同交流会) を行います。



21 藤本 由香里 教授

1. 演習のテーマ

サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会

マンガ・アニメ・ゲームなどの日本のサブカルチャーはどんな特性を持ち、世界の中でどういう位置にあるのか。それは今、デジタル化の中でどう変わりつつあるのか？ この演習では、「大衆」によって支えられるがゆえに、その意識や社会の変化を反映しやすいサブカルチャーを題材に、表現のあり方と社会意識や文化との関係、そして未来を探っていきます。「文化」と「市場」両方に目を向けるところに特色があり、日本のサブカルチャーの特性、歴史的な発展過程、海外市場をどう見るか、とくに「ジェンダーと表現」などについて関連文献を読み、ディスカッションすることでそれぞれのテーマについて考えを深めていきます。その中で4年次の卒論のテーマをそれぞれが見つげ出し、調査→発表→ディスカッション→フィードバックによって、自分なりに何かが「見えてくる」ときの喜びに出会ってみたいと思います。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

ここ数年、ポップカルチャーの市場はデジタル化の促進で激変しています。また、「推し」という言葉に象徴されるようにアイドルに注目が集まっています。2024年度のゼミでは、いったい今、何が起きつつあるのか、未来のポップカルチャーはどのような形に変わっていくのかを積極的に考えていきたいと思っています。ディスカッションは4年生や院生も一緒に行うこともあります。また、海外に広がるBLと現実のLGBTやジェンダーの問題も、表現ともからめて積極的に扱っていきます。後期は具体的な<仕事>と国際性について、マンガ・アニメ・小説・ドラマなどのコンテンツ上での表現を含めて発表してもらい、就活も見据えて、<仕事>について考えます。

<4年次>

4年次においては卒業論文の準備、執筆がメインになりますが、ゼミ生の興味をにらみながら、文献講読や個人発表、グループ発表なども並行して行っていくつもりです。

(2) ゼミ論の有無

有。2万字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、コミケ等で頒布します。

卒論発表会も毎年行っていますが、いずれも非常に水準が高いと好評です。

(3) 評価方法

3年：発表（50%）、ディスカッションへの貢献度（40%）、その他（10%）。

4年：発表（70%）、各発表・討議への貢献度（20%）、その他（10%）

3. 使用テキスト

氷川竜介『日本アニメの革新』、川島優志『世界を変える寄り道 ポケモンGO・ナイアンティック』、中山淳雄『推しエコノミー』『エンタメビジネス全史』、雨月『これからのコンテンツ業界の話をしよう』、池田純一『デザインするテクノロジー 情報加速社会が挑発する創造性』、三木那由多『会話を哲学する』、須川亜紀子『2.5次元文化論』、石田美紀『アニメと声優のメディア史』、吉光正絵ほか『ポスト<カワイイ>の文化社会学』、鈴木涼美『AV女優の社会学』など。

4. 応募学生に望むこと

ゼミは皆さんが作るものです。ディスカッション等、ぜひ積極的な参加を希望します。

5. 選考方法

志望動機書と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明します。

6 ゼミ入室までに学んでおいてほしいこと

『漫画文化論』AB『ジェンダーと表象』ABは受講することが望ましい。

7 その他

2泊3日程度でゼミ合宿を行います。三年次は京都国際マンガミュージアムのある関西方面が多いですが、秋田・新潟に行ったこともあり、4年は仙台・箱根・上諏訪・金沢…など多彩です。

22 眞嶋 亜有 准教授

1. 演習テーマ 学際的日本研究～ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる～

「国際日本学部って一体何？」

「グローバル人材」、「国際日本」とは一体何でしょうか。学問の玉手箱のような国際日本学部に入學された国日生には、合格した直後から「国際日本学部って何？」と周囲から聞かれるお決まりの質問への「正解答」探しの旅が始まる方もいるかもしれません。1年は必修に追われ、2年は様々な領域履修をしているうちにもう3年生、あつという間に就活先で「国際日本学部で何を学びましたか？」と聞かれる時期に入ります。自分の学びたいように履修ができる魅力的な学部でありながら、気づくと、果たして自分の専門性とは何なのか、これまで自分は何を学んできたのか、と「国日不安」を抱く方、さらに、国際日本学部って、「国際なの？日本なの？どっち？!」と自問する方もおられるかもしれません。

「きのこの山」が語るもの

私は新入生には「国際日本」は「きのこの山」だとお伝えしています。チョコとビスケットで出来ているきのこの山が「自分はチョコなのか、ビスケットなのか、どっちなのか」と自問するとしたら皆さんはどう考えますか。「きのこの山」から見ると、就活のグループ面接で、経済学部出身という同期が、まるで「明治のチョコレート」のように、「いいなあ、あの人はどこから見ても正真正銘のチョコレートだ」と映るかもしれません。また、国際教養学部出身と耳にするとあたかも「マリーのビスケット」であるかの如く、「いいなあ、あの人は誰がみても正真正銘のビスケットだ」と思うかもしれません。

しかし「きのこの山」は、「チョコとビスケット」があつてこそ「きのこの山」なのです。つまり、日本を知ることは世界を知ることであり、その両者は決して分かつことができません。それがグローバル社会の本質であり、21世紀を生きる私たちには、そのグローバル社会を生き抜くための知性と教養が求められていると言えるでしょう。

だからこそ「ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる」

そこで学際的日本研究を専門とする眞嶋ゼミでは、「ゼミで Global Japanese Studies を極めてみる」を基本コンセプトに、グローバル社会を生き抜くための知性と教養としての、「世界のなかの日本」を捉える多角的視座の構築を、以下の三本柱を持って目指します。

- ① 多角的視点から見えてくる日本と世界を、ジャパン・オリジナルの如く、自分・オリジナルな視点から考察する試みを持っています。そもそも「日本研究」とは学際性を持って成立するジャンルですが、主に歴史学・社会学・文化人類学・心理学・ジェンダーといった学問領域を複合的に横断するアプローチを取っています。グローバルな視座から「日本とは何か」を問う具体的なトピックは、私たちの日常生活の至るところに溢れており、近現代日本とグローバリズムの諸問題、家族や人間関係、ジェンダーやアイデンティティ、思考行動パターン、生活文化、心性、日本文化の世界発信や異文化受容のビジネスモデル、また個性や多様性をめぐる諸相など、身近な切り口から、比較考察を通じて多角的に分析します。比較対象としては、近現代日本にとって最も重要な他者であり続けた米国との比較考察が基軸としながらも、米国に限らず様々な国や文化圏との多角的比較ができるような視座の構築を目指します。個と多様性が益々重視されていく現代、また超少子高齢化を迎え様々な挑戦が日本に求められているなか、国籍・人種・性差を問わず互いの感性を尊重しながら、私達が日本や世界に貢献しうる可能性とは何か、そしてその豊かさとは如何なるものかを共に学び、考えていきましょう。
- ② 自己発信力と対話力：プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の強化を行います。ガイダンス動画でも説明していますように、これまでゼミでは中野キャンパスホール、駿河台キャンパス・グローバルホールはじめ、様々な会場で発表機会を設けてきました。プレゼン能力とコミュニケーション能力は学問や就活に必要なスキルだけではなく、日頃の対話力をも向上することにつながります。自己発信力と対話力を磨くことで、自己理解を深め、同時に他者理解をも深めることができます。なぜなら、日本を知ることは世界を知ること、世界を知ることには日本を知ることであるように、自己理解は他者理解であり、その両者も分かつことはで

きないからです。

- ③ **国内外で活躍する多彩なゲストとの交流**：本ゼミではこれまで様々なゲストをお招きしてきました。様々な分野で活躍されるゲストから生き方やキャリアのお話を伺うことは、生き方やキャリアの多様性を知ることにつながるだけではなく、多角的視点から「自分とは何か」「生きるとは何か」「幸せとは何か」「豊かさとは何か」を学ぶ機会にもなります。また他大の国際日本学部との合同ゼミも開催しており、他流試合を行うことで得られる視座の構築は有益ですので、今後も希望があれば可能な範囲で計画します。

※2022年度は①②③を踏まえ、文化庁とのコラボ「和食と WASHOKU の世界発信」プロジェクト (NHK World 等でもご活躍されている米国人建築家インタビュー) も行いました。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次> 関連文献講読やフィールド・トリップ、交流イベント、また各自の関心に基づく発表と議論を重ねることで、多角的な思考能力とプレゼン能力、対話力を鍛えます。

<4年次> 上記の学びと並行して卒業後にも活かしていける知性と教養を養います。

(2) **ゼミ論の有無** 希望者のみですが、研究発表と議論は基本的に全員が行います。卒論を執筆しない学生は学期末エッセイや、同等の卒業制作等を行う予定です（詳細は相談）

(3) 評価方法

<3年次> 出席 (30%)、議論含むゼミ貢献度 (30%)、発表と学期末エッセイ (40%)

<4年次> 出席 (30%就活に応じ相談)、議論含むゼミ貢献度 (30%)、同上 (40%)

3. **使用テキスト** (あくまで参考) 教員の著作・論文や HP 内にある連載コラム他、必要に応じてその都度お知らせします。

4. **応募学生に望むこと**：私たちは様々な人々との交流や対話を通じて、自分と社会と世界を知る機会を得ています。よって知的好奇心に溢れ、人の意見とその多様性を尊重したうえで、自分の意見を共有し、主体性をもって共に学び合う意志のある学生を希望します。さらに本ゼミでは、他大学との合同ゼミや国内外で活躍するゲストをお招きする予定ですので、礼節と協調性をもって人と接することができる学生を望みます。

5. **選考方法** 作文等と面接と成績：入室希望者は、ガイダンス動画を閲覧の上で、個別ガイダンスには必ず出席して下さい。(現在留学中の場合は、別途オンライン対応を検討しますので早めに教員にメールをして下さい。) ※基本的に作文等は面接日より早い段階での提出を予定していますので早めに取りかかることをお勧めいたします。面接日は12月3日(日)対面になる可能性もありますので詳細は個別ガイダンス等で確認下さい。

6. **演習入室までに学習してほしいこと** 日々の生活で何気なく抱く問いや関心は将来の重要な道標になるので、その感性を大切に日頃から多くの良書を読んで下さい。また下記リンクにあるエッセイは必ず読んでおいてください(大学ホームページ内の教員ページ内)。

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~majima/170315ryoomoi.pdf>

7. **その他** 教員の担当科目を事前に履修しておくことで学際的日本研究の断片が理解しやすいですが、入室前までの履修が入室条件ではありません。2023年11月18日(土) GJS DAYにて現役ゼミ生が、文化庁とのコラボで行った和食と WASHOKU をめぐるプロジェクト等について発表予定です。GJS DAYの発表当日は、展示やゼミ生との交流会も予定しておりますので、関心のある方は是非ご参加下さい。質問等あれば遠慮なくメールをして下さい。

23 溝辺 泰雄 教授

1. 演習のテーマ:「地域研究(Area Studies): 旅と音楽、カフェ文化から世界を知る」

2023-24 年度の溝辺ゼミは、「旅」を通して「世界の音楽」と「カフェ文化」を学ぶ、をテーマに、世界と日本の文化理解を深めることを目指します。演習の参加者がアフリカを含む世界各地へそれぞれ個別に旅に出て、そこで触れた音楽を通して、文化や歴史、さらには政治や国際関係に関する諸問題を考えていきます。毎週のゼミの時間では、プレゼンテーションやディスカッションなどを通して互いに交換しあうだけでなく、学内/学外のイベントでの報告や旅行記の執筆・出版などを通して、広く一般の方々とも共有する機会も設けます。また、自分たちの経験だけでなく、これまでに世界中で出版されてきた「音楽」や「カフェ文化」に関するさまざまな出版物を読み、異文化を体験・理解することの面白さだけでなく、そこで生じる誤解や偏見などの問題点についても深く考えていく予定です。

2. 演習内容

(1)演習の進め方

2023 年度末の成果報告と 2024 年度末に予定している「旅」、「音楽」、「カフェ文化」をテーマにした雑誌の出版に向けて、年度の始めにテーマや日程を決め、それに向けて皆で役割分担をしながら活動を進めます。具体的な活動内容は下記でも紹介していますので、入室を検討されている方はぜひお読みください：<https://bit.ly/3gmPvSr>

また、これまでのゼミ生の活動は次のリンクからも確認できます：

https://www.instagram.com/meiji_africa_seminar/

【主な行事】

- 料理会(4月と12月頃)：自分たちでテーマを決め、食と音で世界を旅します。
- 学外実習(6~7月頃もしくは12~1月頃)：個別もしくは小グループ別に、異なるルートで最終目的地を目指す旅をおこない、最後に皆で集合してそれぞれの旅の経験を共有します。その上で、地産地消をテーマに、現地で食材を集めて料理を作ります(これまでの最終目的地は、京都、熊本、石垣島、瀬戸内しまなみ海道、鹿児島、佐渡島などでした)。
- 研究活動発表会(2月)：自分たちで食と音をコーディネートしながら1年間の活動報告会をおこないます。
- ゼミ雑誌の作成と出版(4月~2月)：「旅」を通して得た学びを1冊の冊子にまとめます。

これまでの「喫茶部」の活動は下記のページで紹介しています：

[2019 年度] <https://medium.com/club-de-cafe%CA%A9>

[2020~22 年度] <https://note.com/afkencafe2020>

(2)卒業研究

希望者のみ：芸術活動やボランティア活動など論文以外の形式での卒業研究でも構いません。これまでには、アフリカ滞在の旅行記・写真集の作成や創作衣装の制作と発表会、バンドを組んでのオリジナル楽曲の発表などの形式で卒業研究をおこなったメンバーもいます。卒業論文を執筆する場合は、通常の演習とは別に設ける「論文ゼミ(アフリカ研究会)」において、研究課題の設定から調査・研究、論文の作成まで時間をかけて丁寧に作業を進めていきます。過去の卒業研究のテーマについては次のリンクから確認できます：<https://africakenkyukai.myportfolio.com/>

(3)評価方法

演習活動への積極性に基づき評価します。

3. 使用テキスト

入室決定後にお伝えします。

4. 応募学生に望むこと

国内外への旅、世界の音楽やカフェ文化に強い関心を持ち、かつ、世界の諸文化に対する先入観にとらわれていない方々のご参加を歓迎します。ゼミ入室後も留学や休学をしての個人旅行などをおこなっていただいても全く構いません(むしろ推奨しています)。貴重な学生生活のなかでいろんな環境に身を置き、自らの世界観を拡げていただきたいと考えています。なお、これまでに40名を超える学生が、アフリカのさまざまな国々を訪れています。彼らの旅の一部は以下のサイトで紹介しています：

<https://africakenkyukai.myportfolio.com/travels-1>

5. 選考方法

書類審査と面接(対面もしくはZoom)で選抜します。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

いろんなことに好奇心を持ち、気になったことは自分で調べたりやってみたりする気持ちを大切にしながら日々の学びを楽しんでください。

24 美濃部 仁 教授

1. 演習のテーマ

哲学。(このゼミは、参加者がそれぞれ自分の関心にしたいがい、あるいは自分の関心をさぐりつつ、自分をとりまく世界や自分自身の中に問題とすべきことを見出し、それをその根源にまで立ち戻って明らかにする——それが哲学ということですが——ということを中心におこなわれます。その準備として全員で一冊の本を読む、というようなこともしています。どのような問題にどのように取り組むかは各人の自由に任せられていますが、私がこれまで主に勉強してきたのは、哲学、宗教学、倫理学等ですので、専門家として助言ができる領域はそのあたりに限られています。)

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

この授業は、参加者の哲学的関心に沿う形で進めます。ですから、予め「進め方」を細かく決めてはいませんが、ほぼ次のようなことを考えています。

<3年次>

春学期のゼミの進め方については、最初の回に皆で相談して決めます。皆で少し難しい本を一冊読むというやり方もありますし、毎回参加者全員が、その週に本を読むなどして気づいたこと、考えたことを発表し、それについて意見交換をするというやり方もあります。夏休みまでに、自分の勉強のテーマを見つけることを目指します。

秋学期には、自分の考えを組み立て、少しまとまった発表をする機会を設ける予定です。

<4年次>

論文の構成を考えたり、細部について議論したりしながら、勉強の成果をまとめるような形で授業を進める予定です。

(2) ゼミ論の有無

有り。

(3) 評価方法

<3年次> 授業での発表・発言によって評価します。

<4年次> 授業での発表・発言と論文によって評価します。

3. 使用テキスト

こちらから予め指定するものではありません。

4. 応募学生に望むこと

自分自身で問題を見出し、自分自身で考えるようにしてください。

できるだけ二つ以上の外国語に親しんでほしいと思っています。

5. 選考方法

面接。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

できれば講義「宗教と哲学」を履修しておいてください。

7. その他

とくにありません。

25 宮本 大人 教授

1. 演習のテーマ

「メディアと大衆文化／サブカルチャー」

大衆文化（マス・カルチャー／ポピュラー・カルチャー）やサブカルチャーの領域の様々な問題を、そのメディアとの関わりにおいて考える。マンガ、アニメ、テレビ番組、広告、お笑い、ポピュラー音楽などの表現ジャンルに限らず、ファミリーレストランやコンビニなどの大衆的な生活・消費文化、さらにはオリンピックやプロスポーツの大会などの、いわゆるメディア・イベントも視野に入れる。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

3～5名のグループで、フィールドワークや文献購読など、共通の課題に取り組むグループ発表や、受講者それぞれの関心に即した個人発表を中心とする。これを通じて、発表を準備するための参考文献・資料の探し方や分析の方法論を学び、多少難解な学術論文も読みこなせる読解力、効果的なプレゼンテーションの技法、6000字から10000字程度のある程度まとまった分量の論文の作成能力、活発なディスカッションを行うコミュニケーション能力などを、実践的に培っていく。夏休みに3泊4日のゼミ旅行（参加必須、関西方面の予定）を行う。

<4年次>

3年次の終わりまでに卒業論文のテーマを設定し、4年次においてはその準備、執筆を進めていく。もちろん、グループ発表、個人発表、文献講読等、ゼミ全体での活動は3年次同様、継続する。詳しいスケジュールは当該年度の初めまでに決める。夏休みに2泊3日の卒論合宿を行う。課外活動等については3年次のゼミ生と一緒にやる。

(2) ゼミ論の有無

有り。20000字以上の卒業論文をまとめ、ゼミ全体の卒論集を制作し、学外でも販売する。

(3) 評価方法

発表（30%）、ディスカッションへの貢献度（30%）、期末の課題（30%）、平常点（10%）。

3. 使用テキスト

そのつど指示します。

4. 応募学生に望むこと

ゼミは、部活のようなものです。担当教員はコーチに過ぎず、実際にplayするのはみなさん自身です。このゼミがみなさんにとって充実したものになるためには、みなさん自身の積極的な参加が必要です。

幅広い題材を対象にしてよいゼミですので、集まる人の趣味やライフスタイルも様々だと思います。したがって、「自分と違うタイプの人」と付き合う意欲を持っている人を求めます。いわゆる「社交的な」人である必要はありません。人とのコミュニケーションが苦手でも、とにかく自分の殻に閉じこもらない意欲と努力を見せてほしいということです。

5. 選考方法

事前提出の課題と面接。詳しいことは個別ガイダンスで説明するので必ず出席すること。個別ガイダンスに出席していない場合は選考を受けられない。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

26 森川 嘉一郎 准教授

1. 演習のテーマ

マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市

マンガ・アニメ・ゲームおよびそれらに近接するポップカルチャー、デザイン、そして現代都市に関するさまざまなトピックや調査対象の中から個々に選び、研究を行う。自分で創作的な「作品」を制作し、その公表や流通を成果とするような研究も受け入れる。これまで、マンガ同人誌、ショートアニメ、ゲーム、楽曲、スマートフォンのアプリ、同人グッズなどの制作・頒布、さらには展覧会やイベントの企画・実施など、さまざまなことに取り組む学生がいた。在学中にプロの領域に踏み込み、マンガ誌で読切掲載デビューを果たす人も送り出してきた。また、英語による発表や論文、作品制作も可とする。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

各学期の前半は各々の関心領域に沿って、基礎的な文献の洗い出しや、さまざまな調査法の試行を行い、発表とディスカッションを繰り返しながらテーマ設定や資料の採取源、達成目標を明確にした研究計画を作り上げる。学期後半はフィールドワークや取材に重心を移す。各期末には、経過を冊子状の提出物にまとめる。就職を希望する業種によっては、就職活動のポートフォリオの一部となるように作成してもよい。創作的な「作品」を制作する場合には、各学期ごとに成果物を公表するとともに、その反響を簡単なレポートにまとめる。

<4年次>

3年次にまとめた成果と経験を下敷きにししながら、研究計画を再構築し、研究に歴史的・社会的な奥行きを与えていくことを追求する。創作を行う場合は、前年度の達成を踏まえて表現の幅や受容の拡大を目指す。

(2) ゼミ論の有無

有り

各々の研究を自分の実績として、将来的な自己プレゼンテーションの材料として活用しやすいように、研究の成果を各期末にそれぞれ1冊の本に仕上げる（創作的な「作品」を制作する場合はそれに合った形態でもよい）。

(3) 評価方法

発表（40%）、提出物（40%）、平常点（20%）。

3. 使用テキスト

各々のテーマに沿って適宜指示する。

4. 応募学生に望むこと

ゼミのホームページ (<http://edu.a.la9.jp/>) を見ておくこと。研究したい事柄が、応募の時点である程度思い描けていることが望ましい（後から変更してもよい）。

5. 選考方法

作文と面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示する。都合により個別ガイダンスに参加できなかったり留学中だったりする場合は、面接方法等について案内するので演習申込期日の2日前までに森川のメール宛てに問い合わせること）。

6. 演習入室までに学習してほしいこと

ゼミで研究してみたいと考えているトピックについて、試しに関連する文献を探し、読んでみるのが望ましい。作品を作りたいと考えている人は、試作をはじめてほしい。

7. その他

フィールドワークや取材を体験するための校外実習を適宜開催することがある。

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar invites students who wish to research Japanese pop-culture, especially *manga*, *anime* and games, as well as those who are interested in urbanism and design. Studies focusing on particular authors, genres, fan-groups, communities or places, together with their interrelations, are welcome.

The seminar also offers an option to let the students produce art works instead of research papers, on the condition that the works are published and distributed in public venues. There have been members who took up making *manga* fanzines to be distributed at the Comic Market, executing exhibitions, creating short films, making computer games, among many others. Some have entered professional venues during the course, reaching the point of getting their manga published in commercial manga magazines.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

In the first half of the semester, students are to concentrate on determining their interests and pursuits, together with suitable research methods. Digging and mining referential materials are also essential. Every week, the students shall present their progress, followed by discussion. In the second half of the semester, more time shall be devoted to the execution of individual research, whether it be fieldwork, interviews, or experimentation. At the end of each semester, the students are to compile their progress into booklet-form or otherwise.

<4年次 / 4th Year>

Further research shall be conducted, either by extending one's previous year's project, or by starting a project totally anew. Adding historical and international perspectives are encouraged, as well as the pursuit of a well-designed book-form presentation.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Students are to present their progress in booklet-form at the end of each semester. Students who choose to produce art works may design their presentation otherwise, depending on their medium.

(3) 評価方法 / Evaluation

Weekly presentation (40%)、Semesterly presentation (40%)、Attitude (20%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Individually advised.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

Refer to the seminar website: <http://edu.a.la9.jp/>

It is preferable that the student holds ideas as to what he/she wants to study, prior to applying to the seminar.

5. 選考方法 / Screening

Essay and interview. Details shall be announced at the guidance session. Those who are unable to attend, including those who are abroad, should request instructions via Morikawa's e-mail address at least 2 days before the seminar application deadline.

6. 演習入室までに学習してほしいこと / What students should study before starting the Seminar

Hunt for books related to the topics you plan to pursue in the seminar. If you are interested in producing art works, give it a try right away.

7. その他 / Others

The seminar may hold excursions to experience fieldwork.

27 山脇 啓造 教授

1. 演習のテーマ

多文化共生のまちづくり

グローバル化や少子高齢化が進展する中、国籍や民族などの異なる人々が共に生きる多文化共生社会の形成は喫緊の課題といえます。多文化共生の意義を学び、ローカルな課題に取り組みながら、地球時代に生きるためのグローバルな素養を身につけます。具体的には、東京都や中野区など行政や企業、NPO と連携して、対面やオンラインでのワークショップやプレゼンコンテストなどイベントを実施したり、多文化共生をテーマにした動画を制作したりします。地域密着、実践志向で社会連携に力を入れるゼミです。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次> 最初の2、3カ月に、多文化共生に関する文献を集中的に読みます。その後、多文化共生をテーマにしたイベント開催や動画制作などに取り組みます。(教員が2024年度秋学期に在外研究を行う場合、変則的なゼミとなります。必ず個別ガイダンスに参加してください。)

<4年次> 多文化共生をテーマにしたイベント開催や動画制作などに取り組みます。

(2) ゼミ論の有無

任意(書く場合は8000字程度)。

(3) 評価方法

ゼミ活動への貢献(リーダーシップなど)を総合的に評価。(3、4年共通)

3. 使用テキスト

テキストは特にありません。英語の文献も使います。

4. 応募学生に望むこと

①討論：毎回のゼミで積極的に発言できる人。②行動：授業時間外にも、自発的にまち歩きをするなど、フットワークの軽い人。③共生：様々な文化背景を持った人。外国人留学生(ET生を含む)の参加を歓迎します。なお、毎回の出席が原則として求められます。授業時間外にイベントを実施する場合もあり、サークルなどを理由とした欠席は認めません。

5. 選考方法

志望理由書(以下のサイトからダウンロードし、必ず面接日の3日前までに提出してください：<https://yamawaki-keizo.o0o0.jp/tabunka/seminar/>)と面接。選考のポイントは、問題意識、論理的思考力、コミュニケーション力、勤勉性、協調性、学業成績、英語力です。(留学中の学生も原則としてオンラインで面接を行います。)

6. 演習入室までに学習してほしいこと

学部設置科目の「多文化共生論」やダイバーシティ関連科目の履修。

7. その他

入室希望者は、演習案内ビデオやゼミのホームページに必ず目を通し、個別ガイダンスに参加してください。3年次の4月に国内合宿、8月か9月に海外合宿を行う予定です。イベントは、3年と4年が合同で行います。その準備のため、ゼミの時間が2コマ連続となる場合があります。

28 ワルド, ライアン 講師

※この演習は、学生の希望があれば英語でも指導します。

2. 演習のテーマ

日本宗教史と精神文化

本ゼミの目的は、多角的な（歴史学的、人類学的、美術学的、社会学的、宗教学的な）視点を用いて、古代から現代に渡る、日本の宗教史とその歴史の変遷を共に考えることにある。また、日本に限定することなく、なるべく洋の東西（東アジア、インド、中東、ヨーロッパ、北米など）の宗教史についても考察範囲とし、より比較的な検討を行うように努めていきたい。

2. 授業内容

(1) 授業の進め方

<3年次>

進行形式としては、日本の宗教史の基礎知識を学びつつ、事前に学生諸君に読んでおいてもらうべき学術論文を担当学生に簡単な要約をしてもらった上、ディスカッションをする。

<4年次>

同上

(2) ゼミ論の有無

有り

(3) 評価方法

<3年次> 平常点（40%）、発表（30%）、レポート（30%）で行う。

<4年次> 平常点（20%）、発表（20%）、論文（60%）で行う。

3. 使用テキスト

プリントを配布する。

4. 応募学生に望むこと

積極的にゼミに参加する学生を望みます。

5. 選考方法

面接（詳細は個別ガイダンスの際に指示します。）

6. 演習入室までに学習してほしいこと

特になし。

7. その他

現状（新型コロナなど）とゼミ生のご希望によって合宿・遠足/見学を行う予定です。

28 WARD, Ryan Senior Assistant Prof.

1. 演習のテーマ / Theme

This seminar is intended for students who are interested in religious studies, mental health care, and questions concerning life and death. The seminar is primarily run by the students themselves: each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

In past seminars students have dealt with topics concerning as Japanese religion, psychiatry, bioethics, religion and art, and cross-cultural comparisons of life and death.

2. 授業内容 / About the course

(1) 授業の進め方 / How the course is conducted

<3年次 / 3rd Year>

The seminar is primarily run by the students themselves: Each week an individual student makes a 30-40 minute presentation which is followed by Q&A. The professor does show up, unfortunately, and also participates.

<4年次 / 4th Year>

Same as above.

(2) ゼミ論の有無 / Thesis

Yes

(3) 評価方法 / Evaluation

3rd Year: Attendance (40%), Presentation(30%),Report(30%)

4th Year: Attendance (20%), Presentation(20%),Thesis(60%)

3. 使用テキスト / Textbook(s)

Various handouts will be distributed in class as needed.

4. 応募学生に望むこと / What is expected in students who apply

As the topics we deal with are of a highly serious nature, only highly serious students are welcome. Expect to do a lot of work.

5. 選考方法 / Screening

Interviews may be held if needed.

6. 演習入室までに学習してほしいこと/ What students should study before starting the Seminar

None.

7. その他 / Others

2024年度 国際日本学部演習案内

2023年11月8日

編集・発行

印刷・発行

明治大学国際日本学部

東京都中野区中野 4-21-1